

2017/2/13『北海道「北極海航路」調査研究会』の開催

北海道総合政策部交通政策局物流港湾室



研究会の様子

平成 29 年 2 月 13 日(月)、道は『北海道「北極海航路」調査研究会』を札幌市内で開催し、道内の行政機関や港湾管理者などから約 50 名の関係者が参加しました。

最初に、国土交通省総合政策局海洋政策課の志水主査より、北極海航路の最近の動向について講演をいただきました。講演では、2016 年シーズンの北極海航路の利用状況について、総貨物量が 600 万トンを超え過去最大規模だったこと、北極海航路を利用したアジア側との国際間輸送は、ヤマル LNG プロジェクトの資機材輸送が多数を占めており、この輸送の一部には日本船社が所有する船舶も含まれていることなどの説明がありました。この他、国土交通省が事務局を務める北極海航路に係る官民連携協議会における直近の議論の内容の一つとして、実際に北極海航路を利用した事業者より「北極海航路を航行する際には、燃料をなるべく多く積載しておく必要があり、より北極海の入口に近い北日本の港湾で補給が受けられれば良かった」とコメントがあったことが紹介されました。

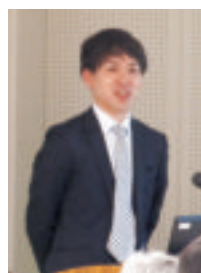
続いて、北海道大学北極域研究センターの大塚教授より、北極海航路の可能性について講演をいただきました。近年の北極海航路を取り巻く現状として、国際間輸送が急減し、ヤマル LNG 関連のロシア向け輸送が拡大、ロシアの航行規制緩和や海水勢力の減退により、アイスクラスの低い船舶の航行が可能となったこと。ロシア北極海沿岸での資源開発について、エネルギー資源の需要減により市場環境は悪化傾向にあるがロシアは北極圏での石油・天然ガス開発を継続中であ

り、ヤマル LNG がフル稼働した際には北極海航路の資源輸送量が飛躍的に伸びる可能性があると言及し、将来的には北海道の港湾が北極海の資源開発サイトへの資機材輸送等の支援基地として利用されることへの期待等について説明がありました。また、トピックスとしてフィンランドの ARCTIA 社の砕氷船がサハリンへの航行途中に函館港へ入港予定であることが紹介されました。

最後に、北極海航路の利活用に向けた今年度の当室の取組について 2 点報告しました。一つ目は昨年 8 月に道内関係者と合同で実施したロシア及びフィンランド調査について、当室参事の鈴木から報告しました。調査では、ロシア連邦ムルマンスク州政府の副知事、フィンランド外務省の北極担当大使等と意見交換を実施し、ロシアでは極東開発に積極的であること、フィンランド関係者からは双方向貨物の確保が必要など、両国における北極海航路の活用に向けた現状と課題等を報告しました。

二つ目は委託事業として実施した北極海航路を活用した道産品輸送の可能性検討における現地調査について、北日本港湾コンサルタント(株)の市川次長から報告しました。現地調査ではロシア、ノルウェー及びフィンランドの現地スーパーや日本食レストラン等からのヒアリングにより、日本食品の輸入状況やニーズなどを確認し、日本食材の価値や食べ方が知られていないことや現地販売網の確保といった課題があることを報告しました。また、北極海航路の活用に向けて、食品見本市や輸出商談会への参加による日本産食材の認知度向上や現地企業とのパイプ作りなどが必要であると報告しました。

道では、今後も本研究会を定期的に開催し、関係者間の情報共有を図る等、北極海航路の利活用に向けた取組を進めていきます。



国土交通省
志水主査



北海道大学
大塚教授



北日本港湾コンサルタント(株)
市川次長